

# 文芸

## 俳句

核の降り終えし菫田の無表情  
池田 逸子  
ハバと云ふ郷土の文化雑煮餅  
伊藤 敬子  
初詣一番大きな硬貨投げ  
今関満喜子  
玄関に二足残りし三日かな  
魚地 照子  
海鳴りを遠く聞きつゝ葛湯吹く  
江森 悦子  
見頃との札にさそわれ寒牡丹  
大谷 武彦  
予告なき地震に飛び出す寒の闇  
川島 孝夫  
指太く皺の手合せ初詣  
川島 通則  
行く年を静かに打つや古時計  
向後 寛  
「はばちやあんは至福の言葉明けの春  
越川 福子  
幾つでも女でありし初鏡  
越川 義則  
初旅にでるや知恵の輪とくように  
小松 藤男  
姫椿なぜ散り急ぐ風の道  
日を汲んで冬空高く観覧車  
佐瀬 輝夫

初句会なじみの席で気迫あり  
鈴木とし子  
正月や誰も気付かぬ誕生日  
鈴木 利子  
冬み空夢が夢呼ぶ箱根山  
玉虫 栗扇  
元日や無心の一日青き空  
土屋美枝子  
吉方位気になる仕事始めかな  
土屋 義昭  
淑やかに菰かぶりしや寒牡丹  
戸村 静華  
初夢や億万長者買ひ忘る  
西崎さち子  
日向ほこちいさな寝息きこえけり  
早川 勇

## 短歌

朝日射し薔薇色に染む富士山の  
御前立なり三島駅舎は  
西山満里子  
八ツ場ダムあたり一面未枯れるて  
工事中止に静もりゐたり  
鈴木まさ子  
富士山を染むる朝光亡き夫の  
シャッターを切る音のするがに  
八角 三枝  
正月を共に祝ふと集ひたる  
孫子十人吾家賑はふ  
吉岡 信子

いくたびの霜の宿りに白菜は  
耐へるが故に甘み増しゆく  
押尾 輝子  
クラス会しばし見詰めて思い出す  
友と遊びし幼き頃を  
平山 芳子  
年末の回覧板に農協の  
米の倉庫の解体を告ぐ  
青木 秀子  
障害者の施設の当直も無事終り  
帰りの道は歌のこぼるる  
田崎 尚美  
水雨降る駅のホームに孫を待つ  
赤き灯の見え電車走り来  
芹川 初子  
稲刈りの済みし広田は夕日受け  
靄たち籠て白く煙ろふ  
島田ますみ  
微笑める夫の遺影に支へられ  
独りの暮しも八年となりぬ  
齊藤つね子  
年賀状書きつゝ思う友のこと  
寄る年波に安否気遣い  
伊藤 定男  
その昔地獄の飛練と呼ばれたる  
マニラの空の思い出うかぶ  
鈴木 益郎  
母よりの新しき足袋枕元に  
置きて寝入りし杳き正月  
高梨 キヨ  
いまひとつ柚子を加えてしまい湯に  
ゆったり浸る眼瞑りて  
土屋 好

## こうほう博物館 47

### 桃の種

節分が過ぎ、立春になると  
陽光のまぶしさと共に、春の  
花が気になってきます。今月  
には坂田城梅林で梅祭りが始  
まり、あちこちで菜の花が咲  
いたり、なんとなく華やいで  
きます。梅の後は桃、桃の後  
は桜と続く花を愛でると、日  
本人に生まれてよかったなあ  
と誰もが思うことでしょう。

さて、今回示した写真は、  
芝崎中島遺跡から出土した桃  
の種です。同遺跡の室町時代  
の穴から十数点出土しまし  
た。このことから室町時代に  
は同地区で桃を育て、食して  
いたか花を愛でていたのかも  
しれません。桃は梅と同様、  
中国原産と言われ、日本には  
すでに縄文時代に入ってきた  
と言われてます。篠本の神  
山谷遺跡では古墳時代の住居  
跡からも、一点桃の種が出土  
しています。日本に入ってきた  
桃は、食用や花を見るだけ  
でなく、薬用や祭祀（神への  
供物）などとして使われたと  
言われ、非常に貴重だったと

思われます。鎌倉時代になる  
と、食用に果肉が大きくなる  
品種が導入され、盛んに食べ  
られていたことが古文書に見  
えてきます。それが室町時代、  
江戸時代と続き、明治時代に  
なって、また新たな品種の導  
入や改良で、今日のような大  
きくて甘い桃が作り出されま  
した。

このように昔の桃の種を見  
ると、人々は昔からおいしい  
ものを食べたいという欲求が  
あったことが分かり、希少で  
あればより高嶺の花であり、  
また特別な思いで食したので  
ろうと思えます。



▲中島遺跡出土の桃の種